

評価委員会総合評価

研究課題名：先端技術を活用した顕著現象の予測精度向上に関する研究

評価委員

委員長：榊原茂記

委員：山中吾郎、藤田 匡、大野浩史、永戸久喜、中里真久、岡本幸三、
足立アホロ、仲江川敏之、山本剛靖、中村浩二、村田昭彦、井上 卓

評価年月日：令和8年2月27日

1. 総合評価

- (1) 実施の可否 可 否
(2) 修正の必要の有無 修正の必要あり 修正の必要なし

2. 総合所見

本研究は、これまでの地方共同研究で得られた成果を発展させ、顕著現象の予測精度向上とアンサンブル予報の現業活用をさらに推進する取り組みとなっている。また、新たな参加官署が加わることにより、対象地域や現象の拡大、MEPS・LEPSをはじめとした先端的手法のブラッシュアップが見込まれ、現業予報の改善および地方官署職員の技術向上に寄与するものと評価することができる。さらに、地方官署が事例解析を分担して進める体制は、地域特性の理解促進と人材育成の観点からも有益である。

一方で、研究目的と研究目標に曖昧さがみられ、気象庁本庁との調整の必要性、地方官署が高度な手法を理解し活用するための支援体制、地方特性を活かすための配慮、研究成果が業務にどのように反映されるかの見通しなど、いくつか考慮すべき点が挙げられる。

実施にあたっては、研究目的と達成目標の整理と明確化、気象庁本庁との連携強化の方策、地方官署への技術支援の充実を図り、事例的調査と統計的調査のバランスを取りながら研究を進めていただきたい。そのうえで、最終的に現業に取り入れるための具体的な方策が明確化され、研究成果が予報の信頼性向上に確実につながる形で結実することを期待する。